2021 年 3 月 31 日
和歌山信愛女子短期大学
FD・教学 IR 委員会

和歌山信愛女子短期大学　2020 年度教学 IR 報告書

FD・教学 IR 委員会
委員長　芝田　史仁

目的

本報告書は、本学の教育内容の改善に資する目的で、2020 年度に行った授業評価の結果を集約し、評価結果に影響を及ぼす要因について分析するものである。

授業評価の実施方法

本学の授業評価は、各授業につき年1回、前期は授業の最終回に、後期は、通年科目では 26～27 の回に、半期科目であれば 12～13 回目の回に行っている。教員はマークシート式の評価用紙を学生に配布し、科目コード等を通知した後、退出し、回答した用紙は学生代表が回収して事務室に提出する。

評価項目は以下の通りである。

評価項目	
【Ⅰ】授業の計画について	
Q1	この授業はシラバスに示された授業内容に基づいて進められていた。
Q2	急な休講や補講、教員の遅刻や早退などは無かった。
Q3	授業の開始時間や終了時間は守られていた。
【Ⅱ】授業の内容について	
Q4	この授業は興味や関心が持てた。
Q5	この授業は自分のためになる内容だった。
Q6	授業の目標が分かりやすく示されていた。
【Ⅲ】教員の教え方について	
Q7	教員の言葉は、聞き取りやすかった。
Q8	学生の理解に合わせて授業が進められていた。
Q9	教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。
Q10	授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた。
Q11	学生の質問に対して適切に対応していた。
【Ⅳ】授業の成果について	
Q12	私はこの授業に意欲的に取り組んだ。
Q13	この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた。

学生は上記項目に対して、最も低い評価を1、最も高い評価を5として、5段階で評価を行う。授業評価はほぼ全ての科目で行うが、ゼミ形式の卒業研究や学外実習科目など、評価対象となる教員を限定するのが困難な科目は対象外としている。

授業評価の分析方法

授業評価結果の分析は、フリーの統計ソフト R（ver.4.0.3）を使用し、パッケージ MASS の polr 関数を用いた順序ロジスティック回帰分析によって行った。分析に使用したモデルの目的変数を、各質問項目に対する学生の5段階評価の回答とし、説明変数には、学生が所属する学科・専攻、学年、評価対象となる科目の種別（講義、演習、実験・実習・実技（以下実験等と示す））、授業の担当教員及び教員の種別（常勤、非常勤）を採用した。さらに、各要因の効果については、パッケージ car の Anova 関数による尤度比検定を用いて分析した。

授業評価と分析の結果

授業評価は前・後期併せて 178 科目で実施し、延べ 7191 人の学生（回答率 90.1%）から回答を得た。対象となる教員は常勤 24 名、非常勤 40 名となった。表1に、各質問項目への評価結果の平均を示す。

学生の授業全体への評価の平均は 4.35 と、概ね高い結果となった(表1)。【Ⅰ授業の計画について】に関する項目の平均評価は 4.47、【Ⅱ授業の内容について】に関する項目が 4.30、【Ⅲ教員の教え方について】に関する項目が 4.31、【Ⅳ授業の成果について】に関する項目が 4.37 と、どの評価項目への回答にも大きさ差は見られなかった。

学生の所属学科・専攻と学年は、どの項目に関する評価に対しても有意な効果が見られた（表2）。1 年次学生（以下、1年生という）の評価では、どの項目とも生活文化学科生活文化専攻（以下、生文という）の学生が、他の学科専攻に比べて低い傾向を示したのに対して、2 年次学生(以下、2年生という）では逆に生文の学生の評価が他の学科専攻に比べて高くなり、生活文化学科食物栄養専攻(以下、食物という）の学生の評価が低くなっていた（表1）。その結果、生文では、1年生の評価に比べて2年生の評価が高くなるという傾向が見られたが、保育科と食物では、1年生の評価に比べて2年生の評価の方が低くなるという結果が得られ、特にその傾向は食物の学生で顕著であった。

次に、受講する教科の種別（講義、演習、実験等）は、授業の計画および教員の教え方に対する評価において、有意な効果があることがわかった（表2）。【Ⅰ授業の計画について】の評価項目では、講義の平均が 4.54 であったのに対して、演習が 4.43、実験等が 4.32 となった。また、【Ⅲ教員の教え方について】の評価項目でも、講義の平均が 4.39、と演習や実験等の平均 4.26 よりも高いという結果となった。有意ではないが、他の質問項目についても、講義への評価が演習や、実

験・実習・実技科目よりも高いという傾向が見られた。

表1. 各質問項目への評価平均一覧

評価項目		全体 (7315件)		保育科				生活文化学科								科目種別						教員種別			
								生活文化専攻				食物栄養専攻													
				1年 (2283件)		2年 (2000件)		1年 (825件)		2年 (774件)		1年 (665件)		2年 (573件)		講義 (2916件)		演習 (3899件)		実験等 (500件)		常勤 (4883件)		非常 (2432件)	
		平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
【Ⅰ】授業の計画について		4.47		4.60		4.27		4.49		4.64		4.68		4.10		4.54		4.43		4.32		4.49		4.42	
Q1	この授業はシラバスに示された授業内容に基づいて進められていた。	4.37	0.81	4.51	0.76	4.21	0.85	4.40	0.77	4.55	0.70	4.64	0.61	3.89	0.88	4.43	0.76	4.35	0.83	4.23	0.88	4.40	0.78	4.33	0.85
Q2	急な休講や補講、教員の遅刻や早退などは無かった。	4.53	0.78	4.66	0.74	4.32	0.83	4.56	0.76	4.67	0.63	4.73	0.62	4.26	0.85	4.59	0.73	4.49	0.80	4.50	0.81	4.56	0.74	4.47	0.84
Q3	授業の開始時間や終了時間は守られていた。	4.49	0.81	4.63	0.77	4.29	0.85	4.52	0.78	4.69	0.61	4.66	0.68	4.16	0.98	4.61	0.70	4.44	0.83	4.24	1.05	4.51	0.79	4.45	0.85
【Ⅱ】授業の内容について		4.30		4.49		4.18		4.18		4.42		4.37		3.89		4.33		4.28		4.23		4.35		4.19	
Q4	この授業は興味や関心が持てた。	4.27	0.90	4.48	0.86	4.16	0.89	4.11	0.92	4.40	0.81	4.29	0.82	3.85	0.94	4.30	0.83	4.25	0.94	4.17	0.96	4.31	0.86	4.18	0.97
Q5	この授業は自分のためになる内容だった。	4.34	0.87	4.56	0.80	4.22	0.88	4.26	0.91	4.43	0.81	4.43	0.74	3.95	0.92	4.37	0.81	4.34	0.90	4.27	0.89	4.40	0.82	4.23	0.95
Q6	授業の目標が分かりやすく示されていた。	4.28	0.91	4.44	0.88	4.16	0.91	4.17	0.94	4.43	0.77	4.40	0.80	3.87	1.00	4.33	0.85	4.24	0.95	4.24	0.95	4.33	0.86	4.16	0.99
【Ⅲ】教員の教え方について		4.31		4.45		4.15		4.29		4.51		4.51		3.94		4.39		4.26		4.26		4.36		4.21	
Q7	教員の言葉は、聞き取りやすかった。	4.31	0.95	4.43	0.97	4.17	0.95	4.25	0.96	4.49	0.79	4.47	0.84	3.98	1.01	4.40	0.86	4.24	1.01	4.29	0.92	4.38	0.88	4.16	1.06
Q8	学生の理解に合わせて授業が進められていた。	4.24	0.97	4.37	1.01	4.13	0.95	4.18	0.95	4.46	0.80	4.39	0.87	3.79	1.01	4.32	0.87	4.19	1.03	4.16	1.00	4.30	0.92	4.12	1.05
Q9	教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。	4.33	0.89	4.48	0.87	4.16	0.93	4.31	0.86	4.54	0.73	4.54	0.75	3.94	0.92	4.41	0.82	4.28	0.93	4.23	0.92	4.38	0.85	4.24	0.97
Q10	授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた。	4.35	0.87	4.51	0.83	4.15	0.92	4.36	0.80	4.48	0.79	4.61	0.66	4.02	0.90	4.41	0.81	4.31	0.90	4.30	0.88	4.39	0.83	4.28	0.93
Q11	学生の質問に対して適切に対応していた。	4.33	0.91	4.44	0.94	4.17	0.93	4.34	0.84	4.56	0.72	4.55	0.74	3.97	0.93	4.42	0.81	4.27	0.97	4.30	0.92	4.37	0.87	4.26	0.97
【Ⅳ】授業の成果について		4.37		4.56		4.24		4.30		4.46		4.47		4.03		4.40		4.36		4.31		4.41		4.29	
Q12	私はこの授業に意欲的に取り組んだ。	4.37	0.83	4.56	0.77	4.24	0.86	4.26	0.85	4.44	0.81	4.48	0.71	4.05	0.80	4.38	0.80	4.36	0.85	4.33	0.79	4.41	0.79	4.29	0.89
Q13	この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた。	4.38	0.85	4.56	0.80	4.23	0.89	4.35	0.83	4.49	0.78	4.47	0.72	4.01	0.86	4.42	0.78	4.36	0.90	4.30	0.84	4.42	0.81	4.30	0.91
総合		4.35		4.51		4.20		4.31		4.51		4.51		3.98		4.41		4.32		4.27		4.40		4.27	

有意差が無かった項目

表2. R の polr 関数による順序ロジスティック回帰分析及び Anova 関数を用いた尤度比検定の結果一覧

評価項目		要因				
		学科・専攻	学年	科目種別 (講義/演習/実験等)	教員	教員種別 (常勤/非常勤)
【Ⅰ】授業の計画について						
Q1	この授業はシラバスに示された授業内容に基づいて進められていた。	***	***	**	***	
Q2	急な休講や補講、教員の遅刻や早退などは無かった。	***	***	*	***	*
Q3	授業の開始時間や終了時間は守られていた。	***	***	***	***	
【Ⅱ】授業の内容について						
Q4	この授業は興味や関心が持てた。	***	***		***	
Q5	この授業は自分のためになる内容だった。	***	***		***	
Q6	授業の目標が分かりやすく示されていた。	***	***		***	
【Ⅲ】教員の教え方について						
Q7	教員の言葉は、聞き取りやすかった。	***	***	*	***	
Q8	学生の理解に合わせて授業が進められていた。	***	***		***	*
Q9	教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。	***	***	**	***	
Q10	授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた。	**	***	*	***	
Q11	学生の質問に対して適切に対応していた。	***	***	*	***	
【Ⅳ】授業の成果について						
Q12	私はこの授業に意欲的に取り組んだ。	***	***		***	
Q13	この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた。	***	***		***	

*** $p < 0.001$, ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$

授業を担当する教員の違いは、どの項目への評価に対しても有意に影響することがわかった（表2）。特に、「Q2：急な休講や補講、教員の遅刻や早退などは無かった」や「Q8：学生の理解に合わせて授業が進められていた」への評価では、常勤の教員の方が、非常勤の教員よりも有意に高い評価を得ていることがわかった（表1）。有意では無かったが、非常勤教員への評価が常勤教員への評価よりも低くなる傾向は、全ての評価項目においても見られた。

2021 年 3 月 31 日
和歌山信愛女子短期大学
FD・教学 IR 委員会

上記の結果を以下にまとめる。

- 保育科と生活文化学科食物栄養専攻では、1年生に比べ、2年生の評価が低いが、生活文化学科生活文化専攻では、1 年生よりも2年生の評価の方が高い。
- 講義系科目の方が、演習や実験・実習・実技系科目よりも評価が高い。
- 担当教員の違いは、学生の評価に有意な影響を与えるが、特に非常勤教員への評価は、常勤教員に比べて低くなる傾向がある。